

## USM (マレーシア科学大学) 研修の報告

USM 短期研修は「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」の一貫である。同プログラムは、すべての研究科のあらゆる研究分野の博士後期課程・博士課程学生を対象に選抜を行い、経済的な支援を行うとともに、学生個々の着実・堅実な研究力に上乘せする形で①プレゼン力②交渉力③合意形成力④行動力、というスキルセットを獲得させること(エンパワメント)を目的としている。今年度より始まった本研修では、現在まだ顕在化していない問題も含めた、都市が抱えるさまざまな社会課題を通じてそれぞれの研究課題を俯瞰的にとらえる能力を鍛え、幅広い視野と情報発信力・交渉力を涵養することで、個々人のキャリア開発につなげるとともに、未来都市共創に資する新たな博士人材を創造するが目的である。

参加したのは、医学研究科から上木あかねさん、薬学研究科から藤田みのりさんの2名で、人間文化研究科の曾我幸代准教授と林敏博寄附講座准教授が引率した。参加者は、事前にSDGsを学ぶ事前研修を受け、持続可能な社会づくりとは何かを考えるきっかけをもった。そのうえで、2022年9月12日から19日にかけて、マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に赴き、約1週間の研修を受けた。この実施にあたっては、USMのJCC(Japan Culture Centre)の協力を受けている。プログラムの日程は、下表の通りである。

DAY	MORNING	AFTERNOON
11 Sun	From Japan to Penang	17:00 Arrive at Penang International Airport (To the hotel by taxi)
12 Mon	08:00 Breakfast with Buddies 10:30 Visit Consulate-General Of Japan 12:00 Welcome Lunch by JCC with buddies (Japanese Cultural Centre)	13:30 Lecture "Current Status of Medical Care in Malaysia" Dr. Sow Kai Fei (Emergency Physician) 16:00 Lecture "Malaysian history and culture" Mr. Tokunaga (JCC) 18:00 Dinner at Queens Bay Mall with buddies 20:00 To Hotel 20:30 Wrap-up
13 Tue	08:00 Breakfast with Buddies 09:30 Volunteer Activity (Refugee Facility) 12:00 Lunch	13:30 Lecture "Refugee in Malaysia" – Online Dr. Siti Aisyah Baharudin (Sc.Social Sciences) 16:00 Campus tour 17:00 To Hotel Dinner with buddies 20:00 Wrap-up
14 Wed	08:00 Breakfast (Free) 09:30 Visit ISDEV (the Centre for Islamic Development Management Studies)	13:00 Lecture "Poverty problem in Malaysia" Online Dt. Parthiban S. Gopal (Sc. Social Sciences) 16:00 To Hotel

	11:00 Visit Centre for Drug Research 12:00 Lunch	19:00 Wrap-up
15 Thu	08:00 Breakfast (Free) 10:30 Beach at Batu Ferringhi 12:00 Take boat from Teluk Bahang 12:15 Introduction to CEMACS (Centre for Marine and Coastal Studies) 12:45 Lunch (Off USM)	13:20 Tour of Research Labs and Museum 15:30 Boat out from CEMACS To Hotel 19:00 Wrap-up
16 Fri	※ Malaysia Day 08:00 Breakfast(Free) 10:00 Think about issues in Malaysia and Japan, find solutions with buddies (JCC)	12:00 Lunch free Afternoon: Free  Dinner (Free)
17 Sat	09:00 Breakfast with Buddies 10:00 Heritage Trail with buddies 12:00 Lunch	16:00 To Hotel 19:00 Wrap-up
18 Sun	09:00 Breakfast 10:00 Preparation for the presentation (JCC) 12:00 Lunch	Afternoon: Free To Hotel (dinner-free)
19 Mon	09:00 Presentation & Closing Ceremony	13:00 Leave Hotel 15:30 Penang to Japan

20 (Tue) 15:00 Leave Hotel  
18:00 Penang to Japan

USM では、マレーシアが抱える社会課題について、社会学部や生物学部の教授陣が講義をしてくださったり、大学内にあるイスラム開発管理センター、麻薬センターや海洋センターを視察して、どのような問題を扱い、研究しているのかの概要説明を伺ったりした。いくつかの講義や視察、市内のフィールドワークを経て、参加者は自らの専門知を生かして、最終プレゼンテーションを行った。

以下が、参加者からの感想文である。

○上木あかね（医学研究科）

研修では、マレーシアの歴史や貧困に関する講義の聴講、難民学校でのボランティア活動、研究施設訪問（ハラル、薬学、海洋学）を行いました。プログラムの中には専門と異なる分野もありましたが、自分で研修のテーマを決めて良いとのこと、専門性を活かしたテーマを渡航前に設定しました。滞在期間中は Japanese Cultural Centre の日本語と英語が堪能なバディの学生と常に行動を共にし、疑問があればすぐに尋ねられ、何一つ不自由なく研修に集中することができました。研修中は各分野の研究者の方々と講義や施設の見学を通してお話しする機会が多くあり、自分の研究との融合の可能性や今後の研究活動のための貴重な人脈を作ることができました。また、研究だけでなく地域社会への貢献を積極的に行う姿勢に刺激をいただきました。

今回の研修を通じて、人種や宗教が違っていても争うことなくお互いを尊敬しあう、マ

レーシアの多文化共生について理解を深めました。最終日のプレゼンテーションは、日本が今後多民族・他宗教国家になった場合、管理栄養士として私にできることは何かについて考える良い機会となりました。

最後に、研修を受け入れて頂いた USM の先生方、バディの学生、本学の引率の先生方、現地でお会いしたすべての方々に、深く感謝の意を表します。



難民学校の子どもたち



Centre for Drug Research のラボ見学

#### ○藤田みのり（薬学研究科）

私が本研修に参加した動機は、幅広い視点から社会課題を学ぶことで、将来、薬学や研究のバックグラウンドを活かして、人や社会に対してどのように貢献できるかを考えたかったからです。

研修ではマレーシアの文化・医療・難民・貧困等に関する講義を受けたほか、難民が通う学校でのボランティア活動や、マレーシア科学大学（USM）の研究施設・ペナン島の世界遺産の見学をしました。

研修を通して、貧困や難民であるために医療にアクセスできない人の存在や、世界の人口の 1/4 を占めるムスリムへの配慮の必要性など、日本では認識できずにいた課題を知りました。最終日の報告会では、薬学を学ぶ者として多文化共生のために何ができるか？をテーマに発表しました。その中で、薬剤師等の医療従事者が、医療にアクセスできない人に向けて、ボランティアとして医療行為や基本的なヘルスケアに関する知識を提供することや、医薬品・化粧品の研究開発・製造販売承認に関して、マレーシアをお手本にハラル（イスラム法に適合すること）認証制度を改良することを提案しました。これらは一例ですが、どのような場面でも、問題を抱える人に解決のための機会や知識を提供すること、そして社会全体が問題を抱える人の存在を認識することの重要性を痛感しました。

また、本研修ではマレーシアの多文化共生を肌で感じることができました。USM で日本語を学んでいる学生がバディとして研修や生活をサポートするだけでなく、各民族の文化を教えてくださいました。バディとの交流を通して、マレーシア人が持つ、異文化に対する理解・敬意・寛容といった精神を学びました。これらは多文化共生を実現する一つの鍵だと考えます。本研修での経験を心に留め、今後も社会課題に関心を持ち続けたいです。

最後に、講義や視察に協力してくださった USM の教職員のみなさま、研修実施に向けてすべてのコーディネーションを担ってくださった JCC 顧問の副田先生、センター長の

徳永さん、事務官のシャフィナスさん、参加者2名のバディとして日々のケアしてくれたり、ともに学んだりしてくれたアラールさんとシェリーさん（USMの学生）に心より感謝申し上げます。実り多い時間となりました。本当にありがとうございました。

人間文化研究科 准教授 曾我 幸代  
寄附講座准教授 林 敏博



マレーシア科学大学内にある日本文化協会



在ペナン日本国総領事館訪問



最終日のプレゼンテーション



センター長、事務官、バディとのお別れ会